

初めてのピレネーハイキング

2019 年の夏休みは、8 月 31 日(土)から 9 月 7 日(土)まで、ピレネー山脈でハイキングの旅！フランスにはスキーで何度か行っているが、ピレネーには行ったことがなく、私には未知の世界である。友人と日にちを決めて、あとはスペシャリストであるセントラルツアーズ社の井上さんに、「おまかせします！計画してくださいませ！」と依頼した。

1 31 Aug. 2019 Sat

羽田を出発し、ミュンヘンを経由してトゥールーズには午後 10 時半くらいに到着。この日は空港近くのビジネスホテルに 1 泊。シャワーを浴びて即就寝。

2 1 Sep. 2019 Sun

先に現地入りしている友人とは、この日タルブ駅で合流予定。トゥールーズを 8:33 に出発する電車に乗らなければならない。それでも、昨日の夜は何も食わずに寝てしまったので、ホテルでお腹いっぱい朝食をいただいた。フランスはパンがとっても美味しい。

まだ日が昇らず真っ暗な中、ホテルのシャトルバスを利用してまずは空港へ。空港から路線バスでトゥールーズ・マタビュー駅へ。電車はほぼ予定どおりに出発し、約 1 時間半後、タルブ駅に到着した。駅を出ると、友人が待っていてくれた。

挨拶もそこそこに、手配してもらった車に乗り込んで、ピック・ド・ミディ展望台を目指して出発。途中で雨が降ってきた。半分景色はあきらめていたのだが、展望台は雲の上である。3,000m 級の山々が見渡せる。明日からのハイキングが楽しみ！

展望台でキッシュのランチをいただき、プラネタリウム(で映画)を観て、その後、アルジェレス・ガゾストのホテルに送ってもらった。

ホテル・ボーシートにチェックイン後、夕食まで街をぶらぶらするものの、日曜日のため開いている店が少ない。当然、インフォメー



ピック・ド・ミディ展望台から

ションも休み。明日のために、バスの時刻表とバス停の場所を聞きたかったのだが、仕方ない。

ホテルに戻ってディナーをいただく。美味しい♪オーナーはとても感じのよい老夫婦で、テーブルを回って、ゲストの世話をしていた。通りに面したエントランスの反対側は斜面になっていて、きれいに手入れされたホテルの庭があった。

だが、どうやら熱がある、私……。持参していた解熱鎮痛剤を飲んで、ベッドにもぐりこんだ。



HOTEL BEAU SITE

3 2 Sep. 2019 Mon

朝から曇り空、あまり天気がよくない。予定では、路線バスを乗り継いで、スペイン橋からビニョマル峰が見える辺りまでハイキングすることになっている。ホテルでの朝食後、インフォメーションでバスの時刻表をもらったのだが、次のバスまで時間がある。そもそも、バスの本数自体少ないし、乗継もよくない。今日は天気予報もいまいちだし、スペイン橋の辺りを散策して終わりだね、などと言ってバスを待った。



Chalet Refuge du CLOT に続く道

アルジェレス・ガゾストからバスに乗って、コトゥレまで。そこでバスを乗り継いで、スペイン橋へ。ここから散策開始。

駐車場からスペイン橋へは徒歩 5 分ほど。そこから上には向かわず、ほぼフラットに歩ける Chalet Refuge du CLOT を通って周回するハイキングとした。予想どおり、ガス、ガス、ガス！それでも水墨画のような風情で趣がある。ザーザー降る雨でなければこんなハイキングも問題なし。とはいえ、これ以上歩くところもなさそうなので、スペイン橋横のレストランに入って、次のバスまで時間をつぶす。クレープとホットチョコにホッとする。

スペイン橋の駐車場からバスに乗り、再びコトゥレまで行く。ここでしばらく乗継のバスがないので、コトゥレの街をぶらぶらすることに。この街は夏のハイキングより、冬のスキーのほうが盛んなようだ。土産物店でもスポーツ用品店でも、登山よりスキー中心の品ぞろえだった。

そろそろバスの時間、と思ってバスターミナルに行くも、来ない…待てど暮らせど来ない…どうやらバスを 1 本間引きしたようだ。結局最終のバスに乗って、アルジェレス・ガゾストに戻った。

4 3 Sep. 2019 Tue

快晴。なのだが、私は風邪を引いて鼻水が出る。幸いにも熱はないため、体がつらいことはない。

予定どおり、手配してもらったガイドがホテルに迎えにきた。今日と明日と、ガイド付きでガヴァルニー圏谷トレッキングである。陽気なガイドのマテオさんは、井上さんと仲良しのように、ことあるごとに“タケシ”、“タケシ”と言っている。

途中、ナポレオン橋に立ち寄った。ナポレオン三世が造ったこの橋は、夏にはバンジージャンプで賑わうようだ。このときは横の崖でクライミングしている人がひとりいた。下から橋まで 60m くらいだろうか。

ガヴァルニーの村に到着し、ここから出発である。森の中の急登をししばらく進むと、“カランカラン”とベルが聞こえてくる。



ガイドのマテオさんと友人と、ピメネ山とプチ・ピメネ山

羊のものだとマテオさんは言う。牛のベルは羊のものより大きいと、もっと低い音なのだと。なるほどー。動物のこと、植物のこと、いろいろ聞きながら、じわじわ高度を稼ぐ。

もう夏休み最盛期ではないのだが、天気がいいのでコース途中では人にも結構会う。会うたびにマテオさんは立ち話をする。マテオさんに限らず、こちらのガイドたちはよく立ち話をする。相手がガイドであれば情報交換、ハイキング客であればいろいろ教えてあげているようだ。

森林限界まで来て辺りが開けると、360 度山々という絶景だった。気持ちいい！気付くと、コース上を歩いていないようだ。案内表示がまるでないし、あんなにいたハイキング客も全く見えないもの(笑) マテオさんは“オレの庭♪”とばかりに歩いている。

本日の宿、エスピュゲット小屋に着いて、マテオさんが用意してくれたトマト(自家栽培！)、ハムやチーズをいただいた。先に着いた人たちが、昼寝をしたり、ビールを飲んだり、岩の上に服を干したり、おしゃべりしたり、気ままに過ごしている。

山小屋にはロバが5頭ほどいて、荷揚げをしているらしい。日本にも、そんな山小屋があるだろうか。聞いたことがない。

私たち3人は、山小屋に荷物少々をデポして、また歩き出した。山小屋の上に見えるピメネ山を目指す。山小屋からはさほど遠くは見えないのだが、なかなか着かない。実は、山小屋から見ていたところは山頂ではなかったのだ。ありがち(苦笑)。

大きな鳥が飛んでいた。ハゲタカだという。死んだ動物の肉を食べることだから、もし、私がここで行き倒れたらこいつらのお腹に収まるのだな。しかし、かなりの数が飛んでいる。そんなに動物の死骸があるものだろうか。

ピメネ山の手前、プチ・ピメネ山に登頂。疲れたー！と、再びマテオさん持参のリンゴ(自家栽培。再！)をいただき、もう時間も時間なので、ここから下山することにした。後で知ったのだが、ガヴァルニーの村が標高1,360m、プチ・ピメネ山が2,667mなので、標高差1,300mを超えている。疲れたわけだ、日本でも滅多にやらないもの、この標高差

は、どうやらマテオさん、“この人たち、まだまだ元気ね〜”と連れて行ってくれたらしい。

山小屋に戻り、私たちもビールで祝杯を挙げた。“標高差1,300mなんて、ひどいよ〜”と言いながら。

夕食時には、食堂がいっぱいになった。同じテーブルについた人たちと、今日はどこから登ってきたの？明日はどこに行くの？と話したりして、楽しく過ごした。

そして、まだ私の鼻水は止まらない…



エスピュゲット小屋 2,027m



プチ・ピメネ山登頂。奥がピメネ山(2,801m)

5 4 Sep. 2019 Wed

本日も快晴。この日の予定は、行程表によると「前日と違うルートをご案内します」とのこと。ガイド任せなのね、と思っていたら、マテオさんも見える範囲をあちこち指しながら、いろいろ提案してくれる。昨日はヘロヘロになったし、私は風邪引きだし、一番楽なルートを選択した。谷が深いので、山小屋の辺りもなかなか陽が当たらず肌寒い。

しばらく下ると、草原に動物の骨があった。何らかの原因で死んだ羊を、ハゲタカが食べた跡のようだ。骨ばかりなので、もうかなり前のものなのかもしれない。ちなみに、ここに放牧されている羊は食肉用。ハゲタカも美味しくいただいたのだろうか。

森の中に入ると、国立公園の印があった。「ピレネー国立公園」である。ここは、スペインにまたがる範囲が「ピレネー山脈のモン・ペルデュ」として世界遺産にも登録されている。また、ガヴァルニーは「フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」としても世界遺産に登録されており、「文化遺産」と「自然遺産」と、それぞれの登録基準を満たした「複

合遺産」ということだ。ただし、今回の旅では「文化遺産」には一切触れない。またの機会に取っておこう(という作戦なのだね、井上さん？)。

岩肌に沿って樹林帯を平行移動し、また少し下ると、円形劇場に例えられる圏谷の最奥に出た。圧倒される高さ！滝が一本見えて、近くまで行けるようだ。少し休憩して、近くまで行ってみることにした。が、全然近づかない。それほど大きいということだ。気付くと、もう真上から水が降ってきているように見える。多くの人が滝のすぐ下まで行っていたが、マテオさんは落石があって危ないからと、そこまでは行かなかった。もう秋なので水量はそれほど多くはないが、岩棚には残雪が見える。春先

は幾筋もの滝が流れ落ちるのだろう。



ガヴァルニー圏谷。中央に滝



国立公園の印はイザール

この先は川沿いをハイキング。途中でまたマテオさん持参のパンやササミでランチ休憩をした。秋の花、トリカブトがきれいだった。日本のトリカブトはしだれているものが多いが、こちらのトリカブトは直立しているものが多い。日本では見たことがない、黄色のトリカブトもあった。それにしても、猛毒とは思えない可憐な花だ。リンドウやアイリスが咲く道を、前日出発した地点まで戻った。

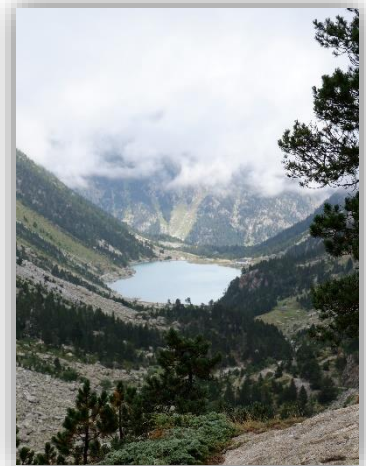
6 5 Sep. 2019 Thu

3 日目に時間がなく断念したピニョマル峰を見るハイキングを決行。だが、起きてみると雨。午後には晴れるという予報を信じて出発した。

スペイン橋の先からリフトに乗って、難なくゴープ湖に到着。ガスで真っ白だ。ここから右岸を通して湖を抜けると、ようやく本格的な上りになる。ところどころ滝もある川沿いを登っていく。行く先はまだ真っ白だが、振り返ると徐々に晴れてきているようだ。後ろから集団がやってくるのが分かる。集団はこの先の山小屋まで行くのだろう。私たちはそこまで行くと日帰りできなくなるので、行けるところまで、ピニョマル峰が見えるところまで、と井上さんに言われている。

うーん…、ピニョマル峰はどこまで行ったら見えるのだろうか。先はまだ雲がかかって山は見えない。帰りはリフトを使わず、下まで歩いて戻ることにしたので、“ここで休憩してUターン！”

岩の上に座ってマテオさんからもらったリンゴを食べていると、予報どおりだんだん晴れてきた。それでもまだピニョマル峰は見えないので、仕方ないね…と湖まで戻る。そして、また振り返ると、おー！あれがピニョマル峰では?! 雲の切れ間に山が見えた。山というか、岩壁。こちらの山は本当に豪快。美しい湖と谷と、その向こうに岩山。絵葉書の世界だ。名残惜しいが、下までどれくらい時間がかかるのか分からない。先を急ぐことにした。



振り返ればゴープ湖



奥に見えるのがピニマル峰なのか？

…コトゥレの街ではまた乗りたい時間のバスが来ず、最終便になってしまった。フランス人、こんなんでもいいのか？！

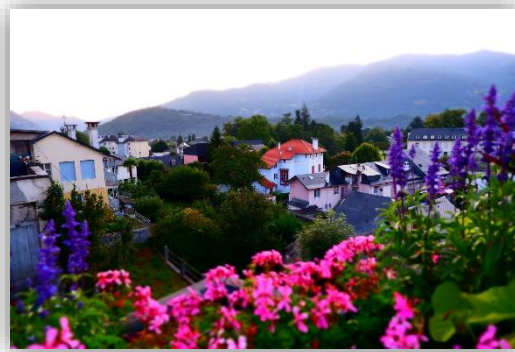
7 6 Sep. 2019 Fri

アルジェレス・ガゾストのホテル・ポーシートをチェックアウトし、友人とはレルド駅でお別れ。友人はここからまだ旅を続け、国境を越えて、スペインに入る。私はトゥールーズに向かい、明日はもう帰国だ。

井上さんの計画はここまで。トゥールーズは特に下調べもしていなかったが、マタビユー駅前のホテルにチェックインしたときにレセプションの人が一通り観光名所を説明してくれ、地図ももらったのでそれで何とかなるだろう。何よりも、お土産を買わなければ！



ガロンヌ川に架かるポン・ヌフ



アルジェレス・ガゾストの朝

ホテルを出て、まずはキャピトル広場に向かう。この辺りが観光客には中心街で、インフォメーションもある。それにしても人が多い。さっさと市街地は抜けて、ガロンヌ川へ出て、川沿いをヌフ橋(ポン・ヌフ)へ歩く。トゥールーズ最古の橋、やっぱり絵になる。その後はまた中心街に戻って、今度こそ買物だ。スミレやパステルが名産、というのをネットで見つけたのでそれを買ってみた。後は、ボンヌママンのマドレーヌ。ヴァローナのチョコレートなんて買えたらいいのだろうが、帰宅するところには溶けてドロドロになるだろう、日本の暑さでは。

8 7 Sep. 2019 Sat

朝、トゥールーズ空港でエアバスのグッズを発見。エアバスの本社はここトゥールーズにある。エアバスの工場見学も行きたかったのだが、直前まで時間が読めなかったのでやめておいた。せめてエアバス ベルーガはいないだろうか、と思って探したが見当たらない。そうこうしているうちに搭乗時間になり、飛行機に乗り込む。目的地はフランクフルト。

フランクフルトには昼前に着き、次の羽田便は午後 8 時半出発なので、“いつも通過ばかりですみません”と、初めてのドイツ観光！だが、あいにく雨だったので、レーマー広場周辺だけ観光することにした。

まずはマギーブイヨンの“マギー”でランチ。ソースやヌードルや、商品はたくさんあり、見ているのも楽しい。店の奥では料理教室もやっていた。

次は、高いところにはぜひ上りたいバカなので、大聖堂の塔へ。この階段がとても狭くて、すれ違いができない。が、何段あるのか知れない階段を上るツワモノはそんなに多くはないようで、一番上で数人に会っただけだった。レーマー広場はサクサク 1 周歩いて終わりにした。

日本には台風 15 号が上陸するという予報が出ているが、飛行機は何事もないかのようにフランクフルトを飛び立った。そして、翌日、台風上陸の前に羽田に着陸。帰宅後、数時間で猛烈な雨風となった。



大聖堂から見たフランクフルトの旧市街

謝辞

今回も、行程を考え、各所手配していただいた井上さんには感謝しきりである。特に、行く先々で温かく迎えてもらえたのは、井上さんの人柄によるものが大きかったと思う。どうかお体には気を付けて、いつまでも楽しい旅の企画を続けてほしい。

また、同行してくれた友人には、体調不良で迷惑をかけてしまったことを謝罪したい。まだ旅が続くのに、風邪引きと同室では気が気ではなかっただろう。今度はしっかり体調管理をするので、また同伴させてほしい。歩いて歩いて、飲んで飲んで♪という旅に。



ピレネーの花

2019/10 横浜市在住 Y.